

夢サラダ Vol.36

2007.2.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
運営：(特非) 今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 25-8234

市民活動センターイベント報告

11月28日、22名(13団体)が参加しました。

第4回市民活動座談会 聞いてみよう、仲間の活動

今治市の市民活動団体から、その活動の魅力や運営上の工夫を聞く第4回目の座談会を開催しました。

勝たなくてもいい、戦う勇気を与えてください

スペシャルオリンピックス(SO) 日本・愛媛・今治

「知的障がいある子ども達が、日常的にスポーツを楽しむことができる場所をつくりたい」と願う数名の保護者が、SOを知り、支部として活動を始めました。月に1～3回、ボウリング・バスケット・水泳プログラムを行なっています。コーチやボランティアの応援の中、子ども達(アスリート)は一生懸命挑戦しています。その姿、その笑顔は家族の何よりの喜びとなっています。

【団体からのメッセージ】

ボランティアの参加がまだまだ少なく、家族が支援をしています。家族と離れて、行動できるようになることも目的の一つです。ぜひ、ボランティアとして参加、応援ください。

【参加者からのメッセージ】

- ・子どもさんに寄り添ってあげることほできそう。ボランティアとして参加したい。
- ・初めて活動を知った。もっと多くの人に活動を広めて欲しい。
- ・自分達の活動を通して、交流ができそうだ。

自然のありのままの姿を見て欲しい

NPO法人愛媛県生態系保全管理

多くの人に自然のすばらしさ、しくみを伝え、環境保全の取り組みの輪を広げたいと願い、活動しています。今治市は「サギソウ」「デンジソウ」「カブトガニ」など、多数の貴重な生き物が生息しています。人間にとっても住みやすいまちである証拠です。かけがえのない自然を知ることが、自然との共生の第一歩です。身近な自然に目を向けることから始めませんか。

【団体からのメッセージ】

今治城などで開催している自然観察会には気軽に参加してください。難しく思われがち自然環境調査も、私たち専門家と一緒に進めれば、一般の方も十分理解できます。

【参加者からのメッセージ】

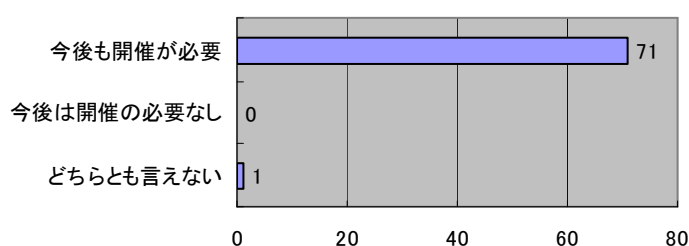
- ・今治市の自然のすばらしさを具体的に知り、驚いた。多くの人に伝えていきたい。
- ・自然観察会は子どもにも大人にも必要。親子で自然に触れ、故郷のよさを感じていきたい。
- ・行政との連携も深めて欲しい。



アンケート結果

72名/87名中

今後、座談会は必要だと思いますか？



【理由】

- ・それぞれの活動内容、課題を聞きたい。
- ・活動内容は異なっているけど、色々なヒントをもらうことができる。
- ・組織内だけの活動になりがち。交流、情報交換の場として必要だ。

座談会報告書は、今治NPOサポートセンターHP

<http://www.ehime-iinet.or.jp/imanpo/index.htm>

でご覧いただけます。

4回の座談会を通して、延べ61団体、87名の方にご参加いただきました。他の団体や行政とのつながりを創っていききたいのを感じました。連携や協働のためには、自らの思いをしっかりと伝える場、そして、関係者同士の相互理解を進めることが必要です。アンケートより座談会の継続開催を求める声がたくさん寄せられました。次年度も、新しい工夫を取り入れながら、座談会を開催していきたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。



採択事業の現場拝見！

◆CAPいまばり

平成 18 年度 市民が共におこすまちづくり事業

採択事業の現場を随時紹介します。

Q. 活動内容について

A. CAPとは、「Children Assault Prevention(こどもへの暴力防止)」の略で、いじめや虐待、誘拐などあらゆる暴力から自分自身を守るために何ができるかということ、寸劇などを通して考えていく人権教育プログラムです。そしてこのプログラムは、「あなたは人として尊重される大切な存在である」ことを伝えることから始まります。そして、誰にも「安心・自信・自由」の三つの権利があること、暴力にあう事はそれらの「大切な権利」を奪われることだと伝えます。現在、依頼をいただいた小学校、幼稚園や、地域団体(婦人会等)でワークショップを実施しています。

Q. 「CAPこどもワークショップおよびおとなワークショップ」の効果は？

A. 大人がこどもを守るといっても限界があります。もし車に連れ込まれそうになっても、子ども自身が「おかしい」と思わない限り犯罪から回避することは困難です。そのため自己防衛の意義を持たせたいので叫び声の出し方やつかまれた時の逃げ方などを教え、危機的状況から逃れる方法を一緒に考えていきます。自分に暴力が向けられているのをあきらめるのではなく、「嫌だ」と立ち向かえることができるようになるためには、大人との関わりの中で自分が大事にされていると実感することも大切です。そこでCAPの効果をより高めるために、暴力に対しての共通の知識を持って子どもの相談相手になってくれる大人を増やす目的で保護者対象・教職員対象の各ワークショップを並行して行っています。実施後、自分の意見を相手に伝えようとする子どもが増え、先生方からは、子どもからの相談が増えるなど「距離が縮まった」などの声をいただいています。

Q. 今後の活動の目標は？

A. ワークショップの効果をあげる為には一度きりではなく、避難訓練のように定期的な開催が望まれます。最近では、全国的に教育の一環としてCAPプログラムが導入されるケースが増えています。CAPプログラムに興味のある方、実施を希望される方のお問い合わせをお待ちしています。

会員も随時募集中です。

問合せ：☎090-2892-1640 (本宮)



企業の社会貢献活動！

第4回 今治サティ

豊かな地域づくりに貢献する活動を展開している今治市の企業を紹介します。情報提供くださる企業を募集しています。



マイカルは地域産業。「地域の広場でありたい」と考え、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

地域に根ざした活動

毎月従業員がボランティアで店舗周辺を清掃する「エコデー活動」や、社会福祉施設などで使用するタオル・雑巾を寄贈する「ふれあい雑巾活動」など、地域との共生を目指し社会貢献活動に取り組んでいます。環境保護活動としては、マイバッグキャンペーン、店頭回収リサイクル活動を行っています。毎日リサイクルステーションには膨大な資源が集まり、作業は大変ですが、お客様からの「ごろうさま！がんばって！やめないで！」という温かい声が励みとなり活動を続けています。

新しい取り組み ―黄色いレシートキャンペーン―

毎月11日、店頭ボランティア団体などの名前と活動内容が書かれた投函BOXを置きます。11日のレシートは黄色になっていて、そのレシートを応援したい団体の投函BOXに入れると、買物額の1%相当の商品が団体に寄附される仕組みで、3月から実施予定となっています。皆さんの日頃のお買物がボランティア団体などのサポートにつながります。このキャンペーンによって、NPO・ボランティアと市民との間に新たな関係が生まれ、活動の輪が広がっていくことを願っています。

市民団体と企業それぞれが持つノウハウを共有する時代、今治サティは全国チェーンだからこそ、地域との絆を何よりも大切にしたいと考えています。高い志をもって活動をされている団体と接することは、社員にとってもよい刺激となっています。



レジ袋削減の一環として「エコバッグ」「マイバスケット」運動。社員もすすんで活動に参加している。



毎日多くのペットボトルやビンが集まるリサイクルステーション。リサイクルに対する市民の関心は高い。

自転車を楽しむ大三島



今治と尾道を約 80km のサイクリングロードで結んだ「しまなみ海道」は、全国のサイクリストたちから「一度は走ってみたい道」と広く知られています。自転車モデルコースづくり事業は、「しまなみ海道」でつながる伯方島・大三島・大島の各島で、順次、島内の自転車モデルコースを作成し、地域の活性化を目指すものです。本年は大三島で実施されました。その様子をお伝えします。
※この事業は、愛媛県が NPO 法人まちづくり支援えひめに委託し、地元住民の参加型ワークショップ形式で進められました。

地域資源の洗い出しとコースづくり

地元を中心に約 30 名の住民が集まり、地域資源の抽出に挑戦です。豊かな自然、お話し上手な人、お祭りなど、普段何気なく接しているものは、実は貴重なまちのお宝です。それらを地域資源として、地図上に整理しました。そして、それらの資源を自転車で巡るコースを検討しました。

2 回のワークショップを重ね、大三島の各地区の特色を生かした 5 つのコースが完成しました。子どもから中高年まで、そしてカップルから家族連れまでと、幅広い層をターゲットにした魅力あるコースです。



試走によるコースチェック

5 つのコースを実際に自転車で走りました。路面の状況や勾配の確認はもちろん、景観・体験メニュー・食事の魅力を検証することが目的です。いつも自動車で走りぬけてしまうところを、ゆっくり自転車で周遊することは、見過ごしていたまちの素顔に出会う機会となりました。「十分、小さな旅を楽しむことができた」との声に、大三島の自転車の旅は提案力のあるものだ実感しました。検証に協力いただいたサイクリストからは、走行中の安全確保の提案があり、利用者と住民双方の視点で検証が進んだことも有意義でした。



今後に向けての議論

コース上の安全面の配慮や立ち寄りポイント確認のために必要なサインなど、整備すべき事項をまとめました。コース充実のために求められる住民の関わりについてもディスカッションを展開。立ち寄りポイントにおける案内ガイドや清掃活動などは、既存の担い手やシステムが説明され、その不足を補う議論が進みました。参加者共通の大きな関心事項は、島の活性化です。この自転車モデルコースがいかされ、島が元気になることを願います。継続的な関わりを検討する場として、事業報告会を予定しています。



コレが愛媛県への提案コース

コース①「御島」を起終点に宮浦地区を周遊
大山祇神社の参道に行く「兵どもの足跡をめぐる旅」
大山祇神社が鎮座する宮浦の町を巡る。参道となる地元の「商店街」を抜け宮浦港へ。地元のガイドがあなたを過去へ誘う。

コース②「多々羅しまなみ公園」を起終点に上浦へ南下 広島まで行っちゃうよ「上浦まるごと満喫の旅」
瀬戸内の島々が目前に広がる開かれた道は、坂がなくてゆったり。鼻栗瀬戸展望台から眺め、中世の歴史を静かに語る甘崎城など上浦町の魅力がたっぷり。

コース③「御島」を起終点に島の北部へ周遊 ぐりやくぐりやく「地域八幡神社巡り旅」
脇道にハンドルを向けると現れる、各地の八幡神社を巡る。しばし自転車を離れ、ゆっくり各地の歴史の深みに浸るひと時を。

コース④「多々羅しまなみ公園」を起終点に島の北部を周遊 スポーツ感覚！景観を楽しもう！「大三島北岸ぶらり旅」
左側に開ける海、右側に広がるみかん畑。峠越えを含むこのエリアは、それなりに充実したサイクリングをお望みの方にぴったり。温泉につかれば疲れもとれるかも…。

コース⑤島の南部を周遊 大三島の自然を満喫「大三島南岸トライ旅」
昔ながらの島らしい海岸線。アップダウンに富んだルートはかなりハード。それだけに潮風を感じながら下るスピード感と爽快感は言葉には尽くせない。

「平成 18 年度大三島自転車道モデルコースづくり事業報告書」より抜粋。

「防災フェスティバル」～被災者と共に生きる～実施報告

去る 1 月 14 日(日)に、自然災害で亡くなった人を追悼し、“命の大切さ”や“災害に強いまちづくり”を考える「防災フェスティバル」が今治市営補助球場にて開催されました。「20m のジャンボ巻き寿司づくり」や「煙の体験」、「防災クイズ」などの企画が実施され、子どもからお年寄りまで大勢の来場者が楽しみながら学びました。

午後 6 時には市内の子どもたちが作成した 2500 個の紙灯籠に火を灯し、「生きる」の文字を作りました。闇の中に柔らかな、それでいて力強い「生きる」の文字を前に、いつ起こるか分からない災害へ、地域が一体感を持って備える大切さを確認しました。

●「前日、当日と本当にたくさんのボランティアのみなさまにご協力いただき、ありがとうございました。」

実行委員会一同



収支決算書

【収入の部】		(単位：円)
項 目	金 額	内 訳
募 金	472,000	500 円 × 944 口
募 金 箱	24,407	
雑 収 入	21,550	高所作業車収益
合 計	517,957	

(収入総額) - (支出総額) = (差引金額)

517,957 円 - 517,957 円 = 0 円

※皆様からの灯りの募金は、北海道の佐呂間町の竜巻被害にあわれた皆様と新潟中越地震で災害にあわれた皆様へ募金いたしました。

【支出の部】		(単位：円)
項 目	金 額	内 訳
災害見舞金		277,792
事業費	広報費	67,738
		29,230
	報償費	15,642
	通信費	18,610
	保険代	15,900
	借上料	27,000
合 計	消耗品	66,045
		ろうそく、のり、等